

これまでの御意見(シンポジウム, 検討部会等)
を踏まえた検討案(H21.5.18)

歩行者優先憲章(仮称)草稿案

わたしたちの京都では、日々の暮らしの中で、まちを歩き続けることにより 1200 年を超える永い歴史を積み重ねてきました。まちに暮らし、まちを歩きながら、自然を愛で、他者と集い、そのことによってまちの賑わいを絶やさずに大切に育て続けてきました。

言うまでもなく、京都には、歩いて楽しむことのできる、世界遺産をはじめとした数多くの歴史的資産や趣ある町並み、優れた伝統や文化、山紫水明の自然や景観など、世界に誇るべき地域の財産が凝縮されています。このような京都の魅力が次世代に継承していくためにも、まちのたたずまいや環境に負担をかけることのない“歩く”という移動手段を大切に続けていくことが不可欠です。そして何より、本来、まちのなかはだれもが安心して快適に歩くことができる場所です。一人ひとりにとってみれば歩くことそのものは楽しむべき活動の一つであり、まち全体から見れば多くの歩く人々はまちの賑わいと活力の重要な源泉となっています。

こうした「歩くこと」の重大な意味に鑑み、わたしたちの京都では、京都の歴史と伝統、そして地球環境を守り、世界の範となる「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進するため、ここに歩行者優先憲章を定めます。

わたしたちの京都では、市民一人ひとは、

- 健康的で、人と環境にやさしい、歩いて楽しい暮らしを営みます。

そして、市民と行政が一体となって、

- だれもが歩いて出かけたくなる道路空間と交通手段を整えていきます。
- 歩いて楽しみたくなる魅力あるまちを創っていきます。
- 京都を訪れる人にも、歩く魅力を満喫できるまちづくりを呼びかけていきます。

歩行者優先憲章(仮称)草稿案

1200 年を超える悠久の歴史を積み重ねてきたわたしたちのまち京都では、自然を愛で、他者と行き交い、そのことによってすばらしい環境を守りつつ、賑わいを絶やすことなく京都のまちを大切に育て続けてきました。

言うまでもなく、京都には、世界遺産をはじめとした数多くの歴史的資産や趣あるまち並み、山紫水明の自然や景観、優れた伝統や文化、など、世界に誇るべき財産が凝縮されています。しかしこのような京都の魅力が、近年のクルマを中心とする生活の中で大きく損なわれてきました。それを克服し、優れた京都の資産を将来の世代に継承していくためにも、まちのたたずまいや環境に負担をかけることのない移動手段を見出すことは、いまの私たちに課された重要な課題です。

京都にふさわしい移動の手段は、過度にクルマに頼るのではなく、自分の力で、また時に他者の助けを借りながら“歩くこと”を中心としたものであるはずです。歩くことはただ移動のためではなく、健全なところと身体を育む人間本来の活動です。そして歩く人々は、まちの賑わいと活力の源泉であり、まちがまちであるためにどうしても欠かせない大切な要素です。

このような認識の下、わたしたちの京都では、その歴史と伝統に培われた貴重な資産、そして地球環境を守り、世界の範となる「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進するため、ここに歩行者優先憲章を定めます。

わたしたちの京都では、市民一人ひとは、

- 健康的で、人と環境にやさしい、歩いて楽しい暮らしを大切にします。

そして、市民と行政が一体となって、

- だれもが歩いて出かけたくなる道路空間と交通手段を整えていきます。
- 歩いて楽しみたくなる魅力あるまちを創っていきます。
- 京都を訪れる人にも、歩く魅力を満喫できるようにします。

第5回未来の公共交通まちづくり検討部会(H21.5.18)での御意見

全般
経済合理主義的な時間の流れ方に対するヒューマン・タイムのような理念として「若干不便であっても良い」といったニュアンスまで言及すべきでは。便利さを追求する観点からだけでは成立しない理念ではないか。

前文
憲章が五十年百年と掲げられるものであるならば、「近年」という表現は違和感がある。
安心して快適にまちのなかを歩くことは、市民の基本的な権利であるという趣旨が伝わると良い。
「移動」という言葉が何度も出てくるが、憲章としては「移動」の話だけに限定されない方が良いのでは。

本文第二項目
「道路空間と交通手段」とすると限定されるので、第二項目目と第三項目目を融合させては。
決意の程を伝えるには「整えていきます」より「整えます」の方が良い。

本文第四項目
京都を訪れる「人にも」とすると訪れる人を軽視している感じがするので、京都を訪れる「全ての人が」としては。
来訪者もお客さまではなく参画の一員として扱った方が、積極的で良いのでは。

歩行者優先憲章（仮称） 草稿案に対するこれまでの御意見（シンポジウム，検討部会等）

名称	
1	市民だけでなく，行政，企業，商店街，教育委員会など京都に関わる全ての方の規範を謳うことを示したネーミングであり，素晴らしい。
2	「優先」という表現が上からの目線に取られかねないのでは。
3	クルマと比較する内容であれば「優先」という言葉が相応しいが，歩くことの良さを謳っている内容なので違う表現の方が良いのでは。
4	「歩くまち・京都」という言葉の印象や語感は大変素晴らしい。 「歩くまち・京都」憲章が良いのでは。
5	「歩いて楽しいまち・京都」憲章としては。
6	『『歩くまち・京都』市民憲章』，「きょうと・歩こう憲章」「京都市民歩きましょう憲章」「京のまち・歩きます憲章」「歩く人のためのきょうと憲章」「京都・歩くまち憲章」など。
7	本文の第2～第4項目には，主語に行政も入っているので，あえて名称には“市民”を入れないということも考えられる。

全般	
8	わかりやすかつ格調の高い文章が良い。
9	市民の共感を得ることのできるものが良い。
10	生活感がにじみ出るような表現が良いのでは。
11	暮らしの中に入ってきて，歩きながら口ずさめるような親しみやすい言葉が良いのでは。
12	難しい表現の変更：「鑑み」，「世界の範となる」などを平易な文章で表現とすると良いのでは。
13	市民と行政が歩行者を優先するという決意表明とすると良い。
14	交通不便地域などの地域ごとの観点や条件が加味されると良い。
15	3つの部会の関連が憲章に反映された方が良い。
16	規範を守ればこういう良いことになります，という結果を見せた方が良い。
17	車椅子など歩くことが不可能な人への配慮が表現されると良い。
18	歩くことが困難な方に対する配慮を，解説の中などで明記できれば良い。

前文	
19	「脱クルマ」「クルマ抑制」「クルマ社会との決別」「公共交通機関を除く自動車等の抑制」というような表現があると良い。
20	たかだか百年程度のクルマ文明について言及することで格調を損なうのでは。
21	行間から「自動車利用抑制」のメッセージが明確に読み取れる現案のスタイルの方がスマートでは。
22	「自動車」を明確に否定するより，他都市への範となり，波及し易くなるのでは。
23	次世代を担う子供への教育・啓発に留意すると良いのでは。
24	交通権のような，権利と義務を明記すると良いのでは。
25	日本人は「権利を有する」といった文章表現はあまりしないので日本人の感性と合わないのでは。
26	前文は長くなりすぎないように，言いたいことを明確にすると良いのでは。
27	「歩く」という言葉が頻出しているので，一部を「人々が行き交う」などに言い換えてはどうか。
28	冒頭の「まちを歩き続けることにより1200年を超える悠久の・・・」とあるが，「まちを歩き続けることにより」はなくても良いのではないか。

本文共通	
29	主語をあいまいにするのも，一つの方法。
30	主語は，わたしたちのまち「京都」になるのでは。
31	観光客も含めた京都市民以外も入っていると考えると，この表現では弱いのでは。
32	施策実施による効果が形となって見えるためには，行動規範として「～すること」ときっちり書くと良い。
33	地域特性の議論を踏まえても，結びの言葉は「目指します」としては。
34	「自転車を含め車両の運行に際しては，歩行者の安全な通行を阻害しないように努めます。特に，細街路や交差点では最大限の注意を払います。」を追加しては。

本文第一項目	
35	本文第一段落の主語は？市民，歩行者，人等が考えられるが，何を指すのか。
36	「営みます」を「大切にします」というように表現を柔らかくしては。
37	「市民一人ひとり」というなら，市民一人ひとりが納得できるような文言に。
38	「近所で買い物しましょう」というと行動につながりやすい。

本文第二項目	
39	「道路空間」を「歩行者空間」の方が，分かりやすいのでは。

本文第三項目	
40	「歩いて楽しみたくなる魅力あるまち，歩いて用が足せる賑わいのあるまちを創っていきます。」としては。
41	「歩くまち京都の魅力」の方が，わかり易いのでは。

本文第四項目	
42	「歩くと楽しいまちであることを呼びかける」としては。
43	「京都を訪れる人にも，歩く魅力を満喫してもらえるまちづくりをしていきます。」としては。

※ゴシック斜字体は既に反映させた箇所